

JORA バイオマス通信 Vol.8

(社)日本有機資源協会がお届けするバイオマスの利活用に関する最新情報です



バイオマスくん
©ochappi/SPiRiTS

< 今回のニューストピックス >

行事報告・行事予定 P.2

- ・社団法人日本有機資源協会 第20回総会
- ・第5回テクノフォーラム開催のお知らせ
- ・第59回バイオマスサロン開催のお知らせ
- ・第6回テクノフォーラム開催のお知らせ
- ・第9回バイオマス活用総合講座開催のお知らせ
- ・「第8回エコプロダクツ大賞」の実施について
- ・バイオマスの活用を推進するアドバイザーを養成する研修を開催(予定)
- ・海外視察参加者の募集について

千葉県在住のバイオマスタウンアドバイザーのご紹介 P.6

株式会社和郷 環境事業部 兼
農事組合法人 和郷園 山田バイオマス担当 相原 秀基 氏
「バイオマスの現場から」



今、注目のバイオマス関連企業をご紹介 P.7

三菱化工機株式会社
「資源循環型社会の形成に貢献する技術」



注目のバイオマスタウンご紹介 P.8

京都府京都市
「自然環境を気遣う「環境にやさしいまち」の実現を目指して」



バイオマスマーク取得企業をご紹介 P.10

全国農業協同組合連合会(JA全農)
「農業分野における植物由来樹脂活用のトップランナーを目指して」



その他 P.11

- ・第5回リン資源リサイクルシンポジウム開催のお知らせ
- ・バイオマス活用推進事業の紹介
- ・バイオマスタウンアドバイザー支援活動リーフレット
- ・バイオマス活用推進パンフレット
- ・JORA バイオマス通信 (Vol.1 ~ 7) のバックナンバーについて

< 行事報告 >

・6月23日(木)

社団法人日本有機資源協会 第20回総会を開催いたしました。

講演会

開催時間: 13:00 ~ 14:45

開催場所: 馬事畜産会館2階 大会議室(東京都中央区新川2-6-16)

講演: バイオマスをめぐる情勢

農林水産省大臣官房環境バイオマス政策課

バイオマス推進室長 深水 秀介 氏

循環型社会の構築・環境省の震災対応

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課

リサイクル推進室 室長補佐 志村 博之 氏

総会

開催時間: 15:00 ~ 16:45

会議次第: 開会

会長挨拶

来賓挨拶

農林水産省大臣官房審議官 雨宮 宏司 氏

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課 リサイクル推進室 室長補佐 志村 博之 氏

来賓紹介

総会議長選任

議事録署名人選任

総会議事

第1号議案 平成22年度事業及び決算報告について

第2号議案 理事の交代及び補充選任について

第3号議案 新法人制度への移行申請関係について

閉会

総会議事は全て提案どおり承認されました。

懇親会

開催時間: 17:00 ~ 19:00

会議次第: 開会

開会挨拶 社団法人日本有機資源協会 会長 兒玉 徹

乾杯挨拶

懇談

閉会挨拶



農林水産省 雨宮審議官



環境省 志村室長補佐



第20回総会の様子



< 行事予定 >

・7月27日(水) 同日開催

第5回テクノフォーラム開催のお知らせ

開催時間: 講演及び質疑応答 / 13:00 ~ 15:30

開催場所: 馬事畜産会館2階 第2・3会議室(東京都中央区新川2-6-16)

講師: 特定非営利活動法人グリーンネットワーク 理事長 佐野 孝志 氏

演題: 「竹の高度循環利用と六次産業化について」

参加費: 3,000円

・7月27日(水) 同日開催

第59回バイオマスサロン開催のお知らせ

開催時間: 講演及び質疑応答 / 16:00 ~ 17:40、意見交換・交流会 / 17:45 ~ 19:00

開催場所: 馬事畜産会館2階 第2・3会議室(東京都中央区新川2-6-16)

講師: 環境省地球環境局地球温暖化対策課 課長補佐 平塚 二郎 氏

演題: 「地球温暖化対策とバイオマス利活用(仮称)」

参加費: 社団法人日本有機資源協会 会員 3,000円 /

バイオマスタウンアドバイザー 4,000円 / 一般 6,000円

第5回テクノフォーラムと第59回バイオマスサロンともにご参加の際は、各々1,000円割引いたします。

・8月26日(水)

第6回テクノフォーラム開催のお知らせ

開催時間: 講演及び質疑応答 / 13:30 ~ 16:00

開催場所: 馬事畜産会館2階 第2・3会議室(東京都中央区新川2-6-16)

講師: 東京工業大学 大学院 理工学研究科 教授 中崎 清彦 氏

演題: 「コンポストの科学 新しい視点から()」(仮題)

参加費: 3,000円

・8月29日(月) ~ 31日(水)

第9回バイオマス活用総合講座開催のお知らせ

社団法人日本有機資源協会では、バイオマス活用全般についての知識の習得を目的に「バイオマス活用総合講座」を開催いたします。

開催日時: 8月29日(月) 12:45 ~ 17:30 オリエンテーション、

講習(バイオマスをめぐる情勢、バイオマス概論、バイオ液体燃料)

17:30 ~ 19:00 懇親会

30日(火) 9:10 ~ 17:20 講習(木質バイオマス、メタン発酵、飼料化(エコフィード)、植物由来プラスチック、炭化)

31日(水) 9:10 ~ 16:30 講習(バイオマス変換・環境問題と微生物機能、コンポスト化、地域バイオマス活用システム、バイオマス活用に関する話題提供、研修修了考査出題解説と意見交換)

開催場所: 馬事畜産会館2階会議室(東京都中央区新川2-6-16)

受講者定員: 40名(申込受付先着順で定員に達し次第、締切とさせていただきます)

受講料: 社団法人日本有機資源協会 会員 60,000円 / 一般 75,000円

申込方法: 8月19日(金)までに、「バイオマス活用総合講座受講申込書」及び「選択受講申込書」に所要事項を記入し、FAXにて社団法人日本有機資源協会 事務局までご送付ください。



・「第8回エコプロダクツ大賞」の実施について

エコプロダクツ大賞推進協議会は、環境負荷の低減に配慮したすぐれた製品・サービス(エコプロダクツ)を表彰する「第8回エコプロダクツ大賞」を実施いたします。

応募方法： 所定の「第8回エコプロダクツ大賞応募申込書」に必要事項をご記入の上、説明資料を添付して、9月2日(金)までに下記の「エコプロダクツ大賞推進協議会事務局」までご送付ください。

募集締切： 9月2日(金) <当日消印有効>

結果発表： 11月中旬(予定)

表彰式： 12月15日(木) / エコプロダクツ展

(エコプロダクツ2011)会場内(東京都江東区、東京ビッグサイトにて)

事務局： エコプロダクツ大賞推進協議会事務局

(〒113-0033 東京都文京区本郷 3-43-16 成田ビル 3階)

財団法人地球・人間環境フォーラム内

TEL: 03 - 3813 - 9735 / FAX: 03 - 3813 - 9737

<http://www.gef.or.jp/ecoproducts/> (応募申込書は URL よりダウンロードできます)

・バイオマスの活用を推進するアドバイザーを養成する研修を開催(予定)

これまで補助事業として行ってきたバイオマスを推進する研修を、今年度より自主事業として研修を開催する予定です。詳細が決まり次第、ホームページ及びメールでご案内いたします。

開催日時： 9月28日(水)～30日(金)

開催場所： 馬事畜産会館2階会議室(東京都中央区新川 2-6-16)

受講者定員： 30名(申込受付先着順で定員に達し次第、締切とさせていただきます)

受講料： 社団法人日本有機資源協会 会員 60,000円 / 一般 75,000円

・海外視察参加者の募集について

AUSTROFOMA(オーストリア国際林業機械展)への参加を主として、オーストリアにおける様々な地域型バイオマス活用事例等を視察し、わが国における先の大震災からの被災地域復興や農山漁村活性化に寄与するバイオマス活用事業化推進の参考とするため、海外視察を実施いたします。

旅行期間： 10月8日(土)～16日(日) <7泊9日間>

旅行代金： 社団法人日本有機資源協会 会員 お一人様 425,000円 / 一般 445,000円

宿泊部屋は、2名 / 1部屋となります。

シングル部屋をご希望の場合は、追加料金41,000円が必要となります。

募集期間： 平成23年8月31日(水)まで

申込方法： 所定の参加申込書にご記入の上、社団法人日本有機資源協会 事務局まで電子メールまたはFAX等にてお申込みください。

旅行代金に含まれるもの	
1 航空運賃	エコミー団体航空運賃利用 オーストリア航空、ルフトハンザ航空等 グレードアップ等についてはお問い合わせ下さい
2 空港税、保険料、燃油サーチャージ等	成田空港使用料、現地空港税、航空保険料、燃油特別付加運賃等
3 宿泊料金	2名 / 1部屋とし、シングル利用(1名 / 1部屋)の場合は追加料金 ウィーン: Hotel ANANAS VIENNA または同等クラス グラーツ: Hotel EUROPA GRAZ または同等クラス を予定
4 食事料金	朝食7回・昼食0回・夕食0回(および機内食) 昼食、夕食は行程内での各自負担を基本とします
5 現地移動交通費	空港 ホテル間、都市間、視察等の専用車
6 視察費	日本からの添乗員・現地ガイド・通訳の各料金、「AUSTROFOMA 2011」登録料、訪問先調整費等
7 チップ、税金、サービス料	旅行日程中の団体行動に伴う、チップ、税金、サービス料、ホテル・空港のポータレッジ



日次	月日(曜)	発着地/滞在地	現地時間	交通機関	スケジュール/カリキュラム	食事
1	10月8日 (土)	成田空港集合 東京(成田)発 ウィーン着	午前 午前 夕刻	航空機 専用車	成田空港第2ターミナル集合 空路、ウィーンへ 着後、ホテルへ 【ウィーン泊】	機
2	10月9日 (日)	ウィーン滞在	終日	専用車	ウィーン市内視察 木質ペレット燃料等の普及状況 ごみ焼却施設 など 【ウィーン泊】	朝 × ×
3	10月10日 (月)	ウィーン発 ギュッシング着 ギュッシング発 グラーツ着	午前 午前 夕刻 夕刻	専用車 専用車	陸路、ギュッシングへ(約160km/約2時間) ・再生可能エネルギー欧州センター(EEE) ・バイオガス発電所 ・バイオマスとソーラーによる地域熱供給システム 視察終了後、グラーツへ(約90km/約1時間30分) 着後、ホテルへ 【グラーツ泊】	朝 × ×
4	10月11日 (火)	グラーツ滞在		専用車	「AUSTROFOMA2011」参加 ガイド・ツアー(日本語通訳付) ディナー・レセプション プレゼンテーション 【グラーツ泊】	朝 × ×
5	10月12日 (水)	グラーツ滞在		専用車	「AUSTROFOMA2011」参加 展示会場視察 ビジネスマッチング 【グラーツ泊】	朝 × ×
6	10月13日 (木)	グラーツ発 (途中視察) ウィーン着		専用車	陸路、ウィーンへ(約200km/約2時間30分) ・グラーツ近郊の地域熱利用 ・シマリング木質発電所 【ウィーン泊】	朝 × ×
7	10月14日 (金)	ウィーン滞在		専用車	・オーストリアエネルギー庁 ・クロスターノイブル修道院林業社 ・ウィーンバイオディーゼル など 【ウィーン泊】	朝 × ×
8	10月15日 (土)	ウィーン発	午前 または 午後	専用車 航空機	専用車にて、空港へ 一路、帰国の途へ 【機中泊】	朝
9	10月16日 (日)	東京(成田)着	午前		着後、解散	機



千葉県在住のバイオマスタウンアドバイザーのご紹介

「バイオマスの現場から」

株式会社和郷 環境事業部 兼

農事組合法人 和郷園 山田バイオマス担当 相原 秀基 氏

略歴:

2007年3月 東京農業大学 農学研究科 博士後期課程修了 博士(農学)

2007年4月 株式会社和郷 入社

2009年1月 バイオマスタウンアドバイザーを取得

2009年4月～2010年3月 関東バイオマス発見活用協議会 会員

2010年4月～2011年3月 関東バイオマス資源活用促進協議会 会員

所属学会 生き物文化誌学会



バイオマスタウンアドバイザーになったきっかけ:

学生時代、所属していた研究室が資源植物・民族植物学が中心だったが、関連研究室群では、鶏、魚類、原猿類、昆虫、化石、と植物だけではない幅広い環境にめぐまれ、動物植物を有機的に考えるきっかけとなった。博士論文では生物多様性をテーマに、南西諸島でのフィールド調査を行っていたため、論文主題以外にも、「島という環境下での農業と物質循環」、「南西諸島内の各地域ごとの伝統・文化と動植物の利用方法」など、バイオマス(生物資源)利用を考える機会に立ち会った。

就職後は、「農業」の現場でのバイオマス関連研究業務に携わり、農業を中心にバイオマス分野と毎日向き合ってきた。

以上のように、学生時代は資源生物に関連、現在の業務では廃棄物系バイオマスに関連してきた。このような状況で体系的にバイオマス関連を学ぶ機会を得るため、お世話になった南西諸島への恩返しが見えてくればという思いから、バイオマスタウンアドバイザー養成研修を受講した。

日常の活動などについて:

千葉県香取市新里にある、「山田バイオマスプラント」で研究・データ収集・プラント運用を行っている。山田バイオマスプラントでは、牛ふんと野菜の残さを原料とするメタン発酵槽がメインのシステムで、生産されるのは、消化液肥とメタンガスであるが、「農業」の視点から見ると、消化液肥がメインでガスは副産物というスタンスである。消化液肥を散布する自走バキューム車やそれを運搬するトラックに、自分達で生産したバイオディーゼル燃料を利用している。他に、試験機器によるバイオマス変換と農業利用を試している。

現場であるため、プラント内での作業、データ回収、記録、分析、圃場での自走バキューム車の運転改善、生産者や外部研究者との情報交流を行っている。あらゆる作業に関わり、見えてくる課題や要望を、実際の運用に反映させながら試験研究を進めている。

今後の活動目標と課題について:

学生時代を思い出すと、「農学」は、栽培、育種、病理、作物、畜産、土壌、発酵、造園、農業経済、農業土木、農村社会、生態遺伝、農業機械など、言い尽くせないほど分野は数多くあった。そして、「農業」現場では、「農学」すべての分野が常に目の前の現実として点在し、大なり小なり、同時にまたは時間差で、向かいあわなければならない。このような課題に対しては、資源植物学で指導を受けてきた「違いを見分ける観察」を常に意識して、バイオマスプラント運用、農業現場での課題解決に向かいあっている。今後も「農業」と「農学」の関係を常に意識しながら活動していきたい。

最近、再生エネルギーの一部としてバイオマス分野も取り扱われることがある。「農業」の視点からは、肥料や生物資源などの側面や、広い意味での様々な「地域バランス」もあるため、再生エネルギーだけなのか？と反射的に思ってしまう。一方、農業でも工業のように、運搬や生産など様々な面でエネルギー面を考えるのは、現在では常識である。「農業からの視点」・「他分野の工業の知見」、自分の専門であった「生物多様性の視点」、もちろん「農学」での様々な分野の知見をとりこみ、「現場・地域での経験」を踏まえての「農業での」バイオマス(生物資源)の利用を進めていきたい。

最後に「バイオマスの利用」に重要なことは、「様々な人々との交流・情報交換・たすけあい」であると日々感じている。



今、注目のバイオマス関連企業をご紹介 ～三菱化工機株式会社～編 「資源循環型社会の形成に貢献する技術」

企業概要

社名： 三菱化工機株式会社
 住所： 〒210-0012 神奈川県川崎市川崎区宮前町 1-2
 HP： <http://www.kakoki.co.jp/>
 新エネルギー営業グループ
 TEL: 044-246-7260 / FAX: 044-246-7280
 資本金： 39 億円(2010 年 3 月末日現在)
 事業内容： プラント事業、環境事業、機械事業

バイオマス関連事業への取組

弊社が取り組んでいるバイオマス関連技術としては以下に示す3製品があります。

バイオディーゼル(BDF)

BDFは、植物油に薬品を添加して反応させ、軽油の代わりにディーゼル車で使用できる燃料にしたものです。弊社のBDFシステムは、筑波大学発のベンチャー企業であるサンケアフェューエルズ社と共同で開発したシステムで、1k /日の製造プラントを茨城県の土浦市に建設し、実証試験を行いました。本プラントの特徴は、反応処理をバッチではなく連続で行うことにより短時間で反応を行っていることと、自社製品である遠心分離機を組み込んで分離性能の向上を図っているところにあります。製造したBDFは市内を走るバスに供給し、トラブルなく安定した走りができています。



BDF 実証プラント

バイオガスシステム

バイオガスシステムは、食品残渣や畜産廃棄物をメタン発酵させることでバイオガスを発生させ、それを電気や熱エネルギーとして利用するシステムです。バイオガスを発生させるためにはメタン発酵槽内を攪拌する必要がありますが、弊社のメタン発酵槽は攪拌に外部動力を必要としない無動力式メタン発酵槽を採用しております。そのため、バイオガスから得られたエネルギーを発酵槽の攪拌に消費することなく有効に利用することが可能です。



無動力式メタン発酵槽

汚泥燃料化システム

汚泥燃料化システムは、下水汚泥を加圧下で熱処理・改質することにより高カロリーな石炭代替燃料を製造するシステムです。脱水汚泥は通常、乾燥や炭化、焼却等の処理が行われていますが、これらの処理は温室効果ガスの発生や維持管理費・汚泥処分コストが高いといった問題を抱えております。本システムはこれらの課題を解決し、かつ炭化処理汚泥よりも高カロリーな燃料を製造することを可能にしています。



汚泥燃料化装置

今後の目標と課題

弊社は、低炭素社会、資源循環型社会の形成に向け、「バイオディーゼル」「バイオガスシステム」「汚泥燃料化システム」の3本柱を中心に「バイオマス活用推進基本計画」に沿った事業提案を行い、社会貢献を 図りたいと考えております。

また、地域分散型の資源やエネルギーの供給・調達等の観点からもバイオマスエネルギーの更なる活用を推進していきたいと考えています。



注目のバイオマスタウンご紹介 ～京都府京都市～編 ～自然環境を気遣う「環境にやさしいまち」の実現を目指して～

市役所所在地： 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488 番地
TEL:075-213-4930 / FAX:075-213-0453

HP: <http://www.city.kyoto.lg.jp/>

人口: 1,463,444 人
(男性 695,235 人、女性 768,209 人、680,139 世帯)
平成 22 年 9 月 1 日現在



廃食用油燃料化施設

京都市について： 京都市は、京都府の南東部に位置する政令指定都市で、市中心部は加茂川(鴨川)・桂川・宇治川が合流する地点に発達した盆地、北部は丘陵地・山地で、市域の面積は827.90km²です。世界でも有数の観光都市であり、市内には、数多くの旅館や飲食店が立ち並びます。農林業の生産額及び就業人口は小さいですが、森林と農地を合わせた面積は市域77%を占め、北山杉や京野菜などが生産され、自然環境や景観保全、伝統文化の継承等の役割を果たしています。

<バイオマスの利活用について>

- ・対象バイオマス： 農作物非食用部、森林バイオマス、木質バイオマス、紙ごみ、食品廃棄物、廃食用油、家畜排せつ物、下水汚泥
- ・成果物： バイオディーゼル燃料、飼料、堆肥、木質ペレットなど
- ・利活用施設： 京都市廃食用油燃料化施設、京都市魚アラルサイクルセンターなど
- ・事業実施主体： 京都市、民間企業、自治会など
- ・利活用の状況： 京都市は、京都議定書が誕生した平成9年から、使用済てんぷら油などの廃食用油を回収し、市バスやごみ収集車の燃料に利用するバイオディーゼル燃料化事業を開始しました。平成21年度からは、「揮発油等の品質の確保等に関する法律」に基づく経済産業大臣の認定を受け、バイオディーゼル燃料を軽油に高濃度(20%)混合した燃料を市バスに使用する試験研究を実施し、今後の利用の拡大に取り組んでいます。

このほか、食品廃棄物に関する取組として、生ごみからエネルギーを回収するバイオガス化技術実証研究、地域コミュニティ単位の生ごみの堆肥化、魚のアラの飼料化及び燃料化等に取組んでいます。

また、森林バイオマスに関する取組として、木質ペレットストーブ及びボイラーの導入助成等を行っています。民間では、木質ペレット製造施設、剪定枝の堆肥化施設が稼働しています。

・京都市バイオマス活用推進計画(愛称:京都市バイオマスGO!GO!プラン:平成23年3月策定)

1 計画の目的

この計画では、京都市内に存在するバイオマスの活用により、
環境負荷の少ない持続的社会的な実現
農林業の振興をはじめとする地域の活性化
バイオマス活用を軸にした新しいライフスタイルの定着
を図るための道筋を示します。

2 計画期間

2011(平成23)年度から2020(平成32)年度までの10年間



廃食用油回収




3 目指す未来像 ~ 自然環境を気遣う「環境にやさしいまち」の実現を目指して ~

豊かな森林資源、伝統文化、進取の気性と創造の力など、京都のまちが持つ「市民力」や「地域力」を総結集し、バイオマスの活用を積極的に推し進めることで、長期的(2050(平成62)年度まで)には再生可能資源を基盤とする未来を視野に入れ、最初の10年間で、自然環境を気遣う「環境にやさしいまち」の実現を目指します。

4 数値目標

京都市内に存在するバイオマスの利用の度合いを示す「バイオマスの総利用率」を、2020(平成32)年度には55パーセントまで高めることを目標とします。

55パーセントを目指すから、
 ゴー ゴー
 バイオマスGO! GO! プランだよ!



現状	2020(平成32)年度
39パーセント	55パーセント

5 重点バイオマス

「木の文化を大切にすまち・京都」は、「木を無駄にしない」を合言葉に、「木」を徹底的に活用します。また、「木」に加え、市民、事業者及び行政の協働による取組の推進が必要な、「紙ごみ」、「食品廃棄物」及び「廃食用油」の3つのバイオマスの活用に、特に力を入れます。

6 目標達成のための方針及び施策

目指すべき3つの未来像(=目的)を基本方針とし、11の基本施策のもと、37の推進項目(具体的施策)を実施していきます。

詳細は、<http://www.city.kyoto.lg.jp/kankyo/page/0000099835.html> 参照

< 担当者のコメント: 京都市環境政策局循環型社会推進部循環企画課 濱 和宏 氏 >



京都市は、市域の4分の3を森林が占め、高級木材として有名な北山杉等の森林資源に恵まれたまちです。また、約147万人の市民が暮らし、年間5,000万人以上の観光客が訪れるため、日々生ごみ、紙ごみ等が多量に排出される、都市化したまちでもあります。こうした特徴を踏まえつつ、化石資源が不足する長期的未来を視野に入れながら、市民、事業者及び学識経験者の方々と共に、京都市らしいバイオマスの活用について検討してきました。

今後は、化石資源代替量やバイオマスの取組の認知度等の指標を用いて施策実施の効果を把握しつつ、『バイオマスGO! GO!』を合言葉に、市民・団体、事業者の皆さんと共汗(きょうかん)しながら、どんどんバイオマスを活用していきます。



バイオマスマーク取得企業をご紹介 ～全国農業協同組合連合会～ 編 「農業分野における植物由来樹脂活用のトップランナーを目指して」

団体名： 全国農業協同組合連合会（JA全農）
 住 所： 〒100-6832 東京都千代田区大手町一丁目3番1号（JAビル）
 HP： http://www.zennoh.or.jp/
 お問い合わせ先： TEL:03-6271-8322 / FAX:03-5218-2541
 事業内容： JA全農は「会員が協同して事業の振興を図り、その構成員である組合員の農業の生産能率を上げ、経済状態を改善し、社会的地位を高めるのに寄与すること」を目的とした事業を行っています。
 出資金： 1,152億9,090万円
 創業： 1972年3月
 取得製品： 農畜産物用出荷資材
 取得時期： 平成21年1月7日
 語る人： 生産資材部 資材課 課長 井上 新也 氏



もっと近くに。

産地がいきいき、をめざして。

当社の商品について：

二酸化炭素の量を増やさない「カーボンニュートラル」という性質をもっているポリ乳酸（PLA）を原料とした農畜産物用出荷資材を開発し、平成18年度から実用化しています。現在はイチゴ用パック（4種類）、ミニトマト用パック、ミディトマト用パックの計6種類を取扱っています。コストの問題はありますが、消費者の環境への意識の高まりを踏まえ、生産地が主体となって環境配慮資材を導入しています。

開発の背景：

「農産物分野で環境配慮型資材のトップシェアを握る」ことを目標に、平成18年11月、九州・熊本県・長崎県のイチゴパックから取組をスタートしました。JA全農は経営理念に「地球の環境保全に積極的に取り組みます」を掲げ、農産物用出荷資材分野でも石油資源に依存しない循環型社会への転換を進めています。環境配慮型出荷資材の普及を進める中で、農産物販売促進のための付加価値となることも実感しています。

バイオマスマーク取得の理由：

農畜産物用出荷資材の多くが石油由来樹脂という中で、効果的にアピールできるように第三者機関の認定をいただきたい、との思いが取得のきっかけです。出荷資材は消費者の方の目に広くふれるものですので、環境配慮型資材の存在をより広く知っていただくための有効な媒体になると考えています。

（採用実績）

平成22年度で約4,500万パックを取り扱いました（平成21年度1,000万パック）。

- ・イチゴ用パック（4種類）：栃木県・新潟県・岐阜県・奈良県・徳島県・長崎県・熊本県・大分県・鹿児島県
- ・ミニトマト：青森県・茨城県
- ・ミディトマト：福井県

今後の展開について：

平成23年度は、さらに前年度を倍増する「1億パックの取り扱い」を目指して、イチゴ用やミニトマト用、ミディトマト用以外のブドウ・菌茸類への普及を進めます。平成22年9月、JA全農が生産者と消費者をつなぐ場として銀座三越に出店した「みのりカフェ」で使用しているテイクアウト用容器をポリ乳酸製に切替え、消費者に環境配慮型資材の存在を広く知っていただくための取組みも進めています。将来的には、ポリ乳酸製容器を回収し、リサイクルを行うスキームも構築していきたいと考えています。



左の写真：
JA全農が出展している「みのりカフェ」

右の写真：
展示会の様子



<その他>

・7月28日(木)

第5回 リン資源リサイクルシンポジウム開催のお知らせ

開催時間: シンポジウム / 13:30 ~ 17:00、意見交換・交流会 / 17:30 ~ 19:30

開催場所: 東京ビッグサイト会議棟(東京都江東区有明3-21-1)

シンポジウム: 1F レセプションホールA

意見交換・交流会: 東京ビッグサイト1F「日比谷マツモトロー」

講師: 東京大学大学院 法学政治学研究科 教授 城山 英明 氏

講演: 「リン資源の国際的ガバナンスに関する海外の動向」

事例発表: (1)「リン資源の世界および国内における動向」(仮)

三井物産アグロビジネス株式会社 肥料事業開発本部 新事業室 室長代理 井上 浩次 氏

(2)「非晶質ケイ酸カルシウム水和物(CSH)添加による

畜舎排水のリン除去・回収と付加的な水質高度化技術」

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 畜産草地研究所

畜産環境研究領域 資源環境研究グループ 研究員 山下 恭広 氏

(3)「鶏ふん発電事業によるリンリサイクルの現状と課題等について」

みやざきバイオマスリサイクル株式会社 総務部 総務課長 矢野 健児 氏

(4)「下水道事業におけるリン資源化の展望」

財団法人下水道新技術推進機構 資源循環研究部 部長 石田 貴 氏

総合討論: 「世界に向けたわが国のリン資源リサイクルの取組」

参加費: シンポジウム: リン資源リサイクル推進協議会会員 無料 / 一般 4,000円

意見交換・交流会: リン資源リサイクル推進協議会会員 無料 / 一般 4,000円

事務局: リン資源リサイクル推進協議会事務局

社団法人日本有機資源協会内 担当 菅原

TEL: 03 - 3297 - 5618 / FAX: 03 - 3297 - 5619

[http:// http://www.jora.jp/rinji/rinsigen/index.html/](http://http://www.jora.jp/rinji/rinsigen/index.html/)

バイオマス活用推進事業の紹介!

社団法人日本有機資源協会は、地方公共団体や民間企業団体等から委託を請けて、次のようなバイオマス活用推進事業を行います。

バイオマス活用推進計画の策定をご検討の際は、ぜひご相談ください。

1. 地域のバイオマス賦存量・利用状況の調査
2. 都道府県バイオマス活用推進計画、市町村バイオマス活用推進計画の策定
3. バイオマス活用推進計画実現のためのフィージビリティ・スタディ及び事業化計画等の策定
4. 施設設置候補地の現地調査・生活環境影響調査・施設設置の許可申請協力等の実施
5. 施設の基本計画・実施方針・要求水準書等の策定
6. バイオマス活用推進のための協議会、各種委員会への参加
7. バイオマス活用推進のための普及啓発活動の支援



バイオスタウンアドバイザー支援活動リーフレット！



バイオスタウンアドバイザーによるバイオマス活用の支援活動を紹介するリーフレットが完成いたしました。同パンフレットをご希望の場合は、下記お問い合わせ先までご連絡ください。

また、以下のホームページアドレスからもダウンロードいただけます。

http://www.jora.jp/txt/bmt/pdf/biomass_adeviser_lowdata0208.pdf

バイオマス活用推進パンフレット！

バイオマス活用推進基本計画等を分かりやすく紹介しているバイオマス活用推進のための総合パンフレットが完成いたしました。同パンフレットをご希望の場合は、下記お問い合わせ先までご連絡ください。

また、以下のホームページアドレスからもダウンロードいただけます。

http://www.jora.jp/txt/bmt/pdf/biomass_project_20110208low.pdf



JORAバイオマス通信(Vol.1～7)のバックナンバーについて

JORAバイオマス通信のバックナンバーをご用意しておりますので、ご必要な方は下記お問い合わせ先までご連絡ください。

< レターの内容に関するお問い合わせ先 >

社団法人日本有機資源協会 嶋本 浩治、出越 しのぶ
 〒104-0033 東京都中央区新川 2-6-16 馬事畜産会館 401
 TEL: 03-3297-5618 / FAX: 03-3297-5619 / E-mail: shimamoto@jora.jp
 URL: <http://www.jora.jp/>

